

リラ安阻止に向け、 金融引き締めを示唆したトルコ中銀

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

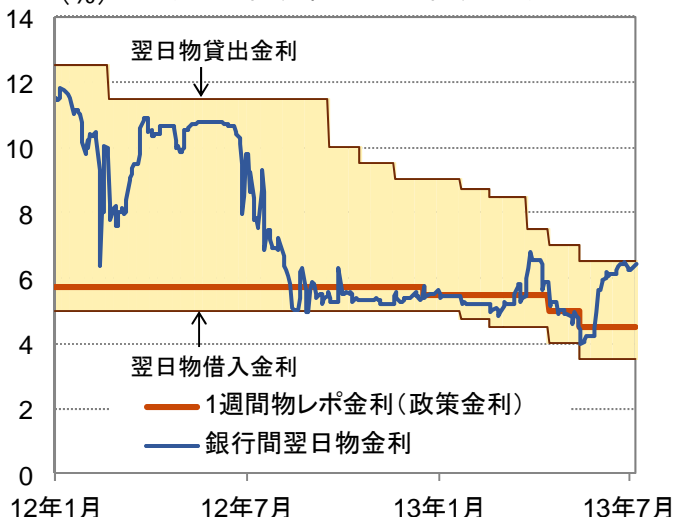
トルコ中央銀行は8日、トルコ・リラが対米ドルで過去最安値となる1米ドル＝1.97リラ台前半へと下落すると、総額22.5億米ドルにおよぶ過去最大規模の外貨売却を行なったほか、短期金融市場への資金供給量を絞り込みました。そして、「今日から強力な追加的金融引き締めが始まる」との声明を発表しました。市場では、これらの動きが、リラの下落阻止に向けた同中央銀行の強力な意思表示と受け止められたことなどから、リラの対米ドル相場は1.95リラ前後に反発しました。

今年4月に日銀が大胆な金融緩和に踏み切るなど、主要国での積極的な金融緩和で余剰マネーが世界にあふれる中、トルコ中央銀行は、リラ高の防止や国内景気への配慮などから、4～5月には2ヵ月連続で利下げを行なうような状況にありました。しかし、その後、米国の量的緩和策、いわゆるQE3の縮小観測が台頭し、これまで新興国市場などに流れ込んできた余剰マネーの引き揚げが懸念されるようになると、リラも一転して下落傾向となりました。

外部環境の激変を受け、トルコ中央銀行は6月上旬に初めて外国為替市場に介入して以降、これまでに合計で50億米ドル近くの外貨を売却し、リラの過度な下落を阻止する姿勢を示してきました。同国の外貨準備高は、今年5月末時点で約1,090億米ドルあり、外国為替市場への介入は適宜、続けられるとみられるほか、今後は、金利引き上げに踏み切るとの見方が強まっています。トルコ中央銀行は、今月23日に金融政策委員会を開催する予定となっており、その内容と市場の反応が注目されます。

トルコの主要金利の推移

(%) (2012年1月初～2013年7月8日)



いずれも、信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

トルコ・リラの推移

(リラ) (2012年1月初～2013年7月8日) (円)



※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。